

2023年度 第1回「教育コンテンツ提案」WG企画 議事録

近年の生成系AIをめぐる大学教育の動向について

開催日時:2023年7月19日(水)10:00~11:30

場 所:ZOOM 会議(オンライン)

参加者:総計13名

大学...5校10名

大学コンソーシアムひょうご神戸事務局...3名

【議事】

議事に先立ち、グループ長の谷村教授より、本ワーキンググループの趣旨として、リモート技術に加え生成系AIのような新技術がさらに大学教育に影響を及ぼす中で、いかなる「教育コンテンツ」の形を模索できるか。本WGでは2022年度に引き続き、現状を参加校と共有し、議論を深めたいとの説明があった。

1. 生成系AIをめぐる大学教育の動向(大手前学園 情報メディアセンター課長 西尾信大)

これまでの「教育+ICT」の移り変わりについて時間軸に表しての話題提供があった。

AI、ChatGPTの概要として、AIは、総務省の定義から、ChatGPTは、アメリカのOpenAI社が開発したもので、現在はバージョン4まで出ている。

また、GoogleとChatGPTの違いについて例を挙げて説明があった。ChatGPTでは、ほぼ完成された文章が提示されるが、実際は誤った情報を示される場合がある。

教育での利用については、限定的なデータソースからの情報や出典が不明確であることなどいくつかの懸念点が示されながらも活用例も示された。

2. 生成系AIに関する教員側の問題意識(グループ長 大手前大学 谷村教授)

5月に開催された本学の「生成系AIに関するFD」の後、現代社会学部教員19名に送付したアンケート(回答9名)について報告があった。実際に使用したことのある教員(3名)、使用したことはないが、その存在は知っていた(6名)、使用したこともないし、FD前は生成系AIの存在も知らなかった(0名)との結果で、実際に使用した教員からは生成系AIの回答は模範解答的な内容(体裁)をとる/情報の正誤を判断する力が使用者に必要であるとの回答を得た、との報告があった。また、ChatGPTの授業での導入の可能性については、留学生とのコミュニケーションツールとしての活用やかなり狭い範囲の知識確認、例えば用語説明のような場合は機能する場合もあると報告があった。

今後予想される課題点としては、本学の学生の作文レベルに比べて、生成系AIが作成

する文章力が大きく優れていることや不正を見抜けないこと、教員が使用する場合も、間違った回答をすることがままあるので、正しい情報を把握したうえで使用しないといけな
いとの意見があったことが報告された。

まとめとして、利用者の倫理や哲学などの問題も関わってくるとの報告がなされた。

3. ディスカッション

WGに参加した神戸大学、兵庫県立大学、園田学園女子大学、関西国際大学より、各大学
の取組状況について報告を頂き、情報共有を行った。

最後に本学の状況として、西尾課長より6月5日付けで学生および教員向けに「学習・
研究におけるICTの利用について」改めて提示したとの報告があった。

4. その他

9月1日(金)開催予定のICT教育推進委員会・情報メディアセンター主催の公開
FD・SD「ICT活用推進シンポジウム 教育DXとオープンエデュケーションの活用に向
けて」について案内を行った。

第2回ワーキングは、12月を予定し、改めて調整することとなった。

以上